

「似合う」要因の研究成果の体系化

磯井佳子

(武庫川女子大学家政学部被服学科)

Systematizing the Result of Studies on the Factors of Becoming

Keiko Isoi

*Department of Textiles and Clothing Sciences, Faculty of Home Economics,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan*

In this paper, the results selected from nine important studies we had published were summarized. The purpose of these studies was to clear how the factors of both persons and clothes affected "becoming". The factors of persons were the shapes, the images and the expression of the face and the body thickness. The factors of clothes were the colors, the designs and the images.

Each study had the respective analysis method. These methods were also introduced.

Systematizing these results to a table, we obtained some new results. Three examples of these results were shown.

- ①The clothes to be becoming for a large number of persons were found.
- ②The persons to be becoming for a large number of clothes were found.
- ③The clothes to be becoming for a defined person was found.

緒言

従来様々な方向から「似合う」について研究してきた。これらの研究を一つにまとめることによって、従来の研究成果の有効な新しい利用法を考える。

従来の研究方法

〈研究 1¹⁾〉被験者の顔を表す形状項目から、洋服別に「似合う」要因を解明する。

1. 試料

被験者：本学学生 30名

洋服：カジュアルウェア 21着

判定者：判定訓練を積んだ者 3名

2. 判定方法

被験者：判定者が、顔の形状を表わすと考えられる8分類83項目の基準に従い、判定する。

洋服：被験者が、洋服の特性を表わすと考えられる8対のイメージ判定用語を用いて、3段階で判定する。

似合う：判定者は、30名の被験者が21着の洋服をアリスミラーによって着用した状態を、「似合う」「似合わない」の2段階で判定する。

3. 解析方法

- a. 単純集計：21着の洋服に対する、被験者30名の判定の平均値を用い、8対のイメージ判定用語で21着の洋服を表現する。洋服のイメージが近いものを統合した結果、7グループ得られた。

- b. 数量化Ⅱ類：「似合う」を外的基準，被験者をデータとし，洋服のグループ別に数量化Ⅱ類で分析を行う。

〈研究 2²⁾〉被験者と洋服の色の組合せによる「似合う」要因を，被験者と洋服の色のイメージから解明する。

1. 試料

被験者：雑誌より 4 名（原田・森・井森・城之内）

洋服：ポロシャツを次に示す 5 色に変化させた 5 着とする。マンセル表色系，5R(7/2)，5Y(6/6)，7.5GY(6/6)，2.5G(5/6)，7.5B(4/2)

判定者：本学学生 30 名

2. 判定方法

被験者：判定者が，被験者の顔に対する印象を自由に表現する。

洋服：判定者が，色の特性を表わすと考えられる 9 イメージ判定用語について，3 段階で判定する。

似合う：判定者は，PC98XA の画面上で合成された被験者 4 名と洋服 5 着，合計 20 枚の合成画面を 1 枚ずつ見て，「似合う」「似合わない」を 2 段階で判定する。

3. 解析方法

- a. クロス集計：「似合う」と判定された試料について，被験者の印象と洋服の色間の関係をクロス集計する。

- b. 比率の検定：どのような被験者の印象と洋服の色の組合せの時に，「似合う」と判定されるのか，比率の検定を行い両者間の関係を見る。

〈研究 3³⁾〉研究 1 では洋服をイメージで捉え，「似合う」要因を説明したが，研究 3 では洋服のデザインと顔の形状関係から「似合う」要因を解明する。

1. 試料

被験者：本学学生 20 名

洋服：スカート（黒）とブラウス（白）の組合せ，16 着で，その要因と水準は右に示す。

判定者：判定訓練を積んだ者 3 名

要因	水準 1	水準 2
スカート	タイト	フレアー
ブラウス	半袖	袖無し
着方（ブラウス）	イン	アウト
衿（ブラウス）	フラット	ノー

2. 判定方法

被験者：判定者が，顔の形状を表わすと考えられる 7 分類 35 項目の基準に従い，判定する。

似合う：判定者は，20 名の被験者が 16 着の洋服をアリスミラーによって着用した状態を，「似合う」「似合わない」の 5 段階で判定する。

3. 解析方法

- a. 分散分析：4 要因の主効果と交互作用を求めるために，判定者 3 名の判定を繰り返し数，「似合う」評価点をデータとし，分散分析を行う。

〈研究 4⁴⁾〉従来は 1 着の洋服，あるいは何枚かの洋服で形成された洋服のグループに対して，顔の形状やイメージの要因で「似合う」を説明してきた。本報告では，洋服の要因と人の要因の交互作用も表現できる判定構造モデルを作成し，「似合う」要因を解明する。

1. 試料

被験者：本学学生 59 名の中からイメージが異なる 18 名

洋服：100 着の中からイメージが異なり，フォーマルからカジュアルにわたる基本的な洋服 21 着

判定者：助手及び学生 38 名の中から判定能力（再現性と正確度）が高いとして選定した 8 名

2. 判定方法

被験者：判定者が，被験者の特性を表わすと考えられる 20 対のイメージ判定用語を用いて 5 段階で判定する。

「似合う」要因の研究成果の体系化

洋服：判定者が、洋服の特性を表わすと考えられる 18 対のイメージ判定用語を用いて 5 段階で判定する。

似合う：判定者は、被験者 18 名が 21 着の洋服をアリスミラーによって着用した状態を、「似合う」「どちらでもない」「似合わない」の 3 段階で判定する。

3. 解析方法

- 標準化：被験者と洋服それぞれについて、判定者ごとにイメージ判定用語に対する判定値が平均 0、標準偏差 1 になるよう標準化する。
- 因子分析：標準化された値をデータ、イメージ判定用語を変数として因子分析を行う。被験者については 6 因子、洋服については 5 因子得られた。被験者と洋服それぞれについて、各因子の因子負荷量を標準化値に乘じ、因子別に加算し因子得点を求める。
- 1 回目の数量化Ⅱ類（データは洋服とした場合）：各因子の因子得点の大・中・小をそれぞれのカテゴリー“+、0、-”とし、5 因子×3=15 カテゴリーを列に取り、21 着の洋服について該当すれば 1、該当しなければ 0 とする。この 15 列×21 行をデーター、外的基準を似合う程度とし、数量化Ⅱ類を行う。
- 2 回目の数量化Ⅱ類（データーは被験者）：洋服の場合と同様に被験者についてもカテゴリーデーターを作成する。外的基準は 1 回目の数量化Ⅱ類のスコアを用い、2 回目の数量化Ⅱ類を行う。

〈研究 5⁴⁾〉従来、判定に用いたイメージ用語や形状用語は相関性を利用して分類してきたが、各用語がグループの一員となるため、用語個別の効果を把握できない。そこで「似合う」と判定された顔と洋服の全組合せに対する寄与率を調べ、「似合う」尺度を表現する用語を選定する。

1. 試料

被験者：本学助手・学生 23 名

洋服：100 着の中からイメージが異なり、フォーマルからカジュアルにわたる基本的な洋服 21 着

判定者：助手及び学生 38 名の中から判定能力（再現性と正確度）が高いとして選定した 8 名

2. 判定方法

被験者：顔の形状を表わすと考えられる 14 項目と主観によって判定が左右されると思われる 19 項目のイメージ判定用語については、筆者が該当する場合を 1、しない場合を 0 と判定する。33 イメージ判定用語については判定者が判定し、判定値の平均値が 5 段階で 4 以上であれば該当するとする。

洋服：洋服の特性を表わす形状に関する 45 項目については、筆者が判定する。31 イメージ判定用語については判定者が判定し、各判定用語に該当するかしないかは、被験者の場合と同様に行った。

似合う：判定者は、被験者 18 名が 21 着の洋服をアリスミラーによって着用した状態を、「似合う」「どちらでもない」「似合わない」の 3 段階で判定する。

3. 解析方法

- 度数分布：洋服別に「似合う」と判定された被験者について、洋服の要因ごとに被験者に共通した要因を抽出し、全洋服・全被験者について集計し、度数分布を求める。
- 検定：「似合う」と判定された回数と全組合せ数から「似合う」確率を求める。判定者の「似合う」判定やイメージ判定の誤差を考慮し、似合う確立が 0.8 以上で危険率 5% 有意と判定された場合を効果のある要因とする。

〈研究 6⁵⁾〉洋服の色とデザインの適合度と「似合う」はどのような関係にあるのか。また「似合う」「似合わない」に影響する色は、色のトーンなのか、色相なのかを解明する。

1. 試料

被験者：雑誌からイメージが異なるモデル 3 名

洋服：無地のワンピースを基本に、次に示す 22 色に変化させた 22 着とする。使用した色は、P・C・C・S 表示による。

Y-ltg, R-b, GY-d, R-lt, R-dp, YR-dp, Pb-dp, BG-ltg, BG-d, R-p, YR-p, PB-p, YR-ltg, P-ltg, P-g, P-d, R-g, YR-g, RP-g, RP-d, R-d, PB-dk

判定者：判定能力（再現性と正確度）が高いと判定された5名

2. 判定方法

適合度：判定者は、22色に色替えされたワンピースをアトスターの画面上で1着づつ見て、洋服の色とデザインの適合性を「マッチしている」「どちらでもない」「マッチしていない」の3段階で判定する。

似合う：判定者は、アトスターを用いて合成された被験者3名と洋服22着の組合せ、合計66試料を1枚づつ写し出された画面を見て、「似合う」「どちらでもない」「似合わない」の3段階で判定する。

3. 解析方法

- 比率の相関：被験者の影響を調べるために、被験者別、洋服別に「似合う」判定数の比率を求め、次に被験者を変数、洋服をデータとして、「似合う」比率の相関を求める。
- 度数分布：被験者の「似合う」色を調べるために、被験者別に「似合う」と判定された色相とトーンの度数分布図を作成する。

〈研究7⁶〉洋服のイメージと顔のイメージの適合性が「似合う」に及ぼす影響を明らかにする。

1. 試料

写真：全体のイメージがスポーティな12枚、エレガンスな12枚、フェミニンな12枚、マニッシュな12枚の合計48枚

判定者：判定能力（再現性と正確度）テストの結果、判定能力別に5名づつA・B 2グループに分類した。Aは判定の再現性が、相関係数で99%有意、Bは95%有意であった人。

2. 判定方法

写真：判定者が、次のa、b、cについて各イメージ判定用語を用いて3段階で判定する。

- 全体の判定は、4イメージ判定用語。
- 顔の判定は、12イメージ判定用語。
- 洋服の判定は、12イメージ判定用語。

似合う：判定者2グループが、「似合う」「どちらでもない」「似合わない」の3段階で判定する。

3. 解析方法

- クロス集計：「似合う」と「似合わない」と判定された写真について洋服のイメージと顔のイメージ間の関係をクロス集計する。
- χ^2 検定：クロス集計の結果から、「似合う」「似合わない」という判定と、洋服のイメージと顔のイメージとの適合度に有意な関係が見いだされるか検定する。
- 比率の検定：どのような洋服イメージと顔イメージの組合せの時に、「似合う」「似合わない」と判定されるのか、比率の検定を行い両者の関係を見る。

〈研究8⁷〉従来は被験者の特性を表わすイメージ判定用語や顔の形状項目を用いて、被験者の静止した顔の判定を行ってきた。しかしながら同じ被験者であっても判定時の表情により「似合う」に差が生ずる。そこで被験者の表情の差が被験者、洋服、判定者の差に比べて「似合う」にどのような影響を与えるか明らかにする。

1. 試料

被験者：本学学生で外観や印象の異なる4名。この4名に4種類の表情を注文し、16種類とする。

洋服：20代前半の学生・OL向きと思われ、イメージがフェミニン・マニッシュ・アダルトの3着

判定者：本学10名の学生・助手の中から、判定能力（再現性と正確度）が高いと判定された5名

2. 判定方法

被験者：判定者が、顔の4表情の特性を表わすと考えられる16イメージ判定用語用い5段階に判定する。

似合う：判定者は、アトスターを用いて合成された被験者4名の4表情と洋服3着の組合せ合計48試料を「似合う」から「似合わない」までの5段階で判定する。

3. 解析方法

- 因子分析（表情）：4表情が各被験者を通じて同じと考えてよいかを検討する。被験者ごとにイメージ判定用語に対する判定値が平均0、標準偏差1になるよう標準化する。この判定値をデータ、イ

「似合う」要因の研究結果の体系化

メージ判定用語を変数として因子分析を行った結果、3 因子得られた。各因子の因子負荷量に標準化値を乗じ、16 表情それぞれの因子得点を求め、表情を分類する。

b. 分散分析：被験者、表情、洋服、判定者の4 要因の主効果と交互作用を求めめるために、3 元配置による分散分析を次の2 段階に分けて行う。

ア. (被験者×表情)、洋服、判定者。 イ. 被験者、表情、洋服。

〈研究 99〉身体太さを表わす項目として肩幅・腰幅・脚幅の3 部位を選び出し、それらの太さを変化させ各部位を組み合わせた身体モデルを作成する。この身体モデルから太さの弁別閾を求め、各部位の太い・細いが「似合う」に及ぼす影響を求め。

1. 試料

被験者：3 部位(肩幅・腰幅・脚幅)の太さの閾値から太い・細いと判定された部位モデルの全組合せ8 種類。

洋服：セーターとスカート2 種類、スーツ2 種類の合計4 種類。

判定者：判定能力(再現性と正確度)が高いと判定された5 名

2. 判定方法

被験者：判定者は、アートスターで合成された8 種類の身体モデルを「太い」「太くない」の2 段階で判定する。

似合う：判定者は、アートスターを用いて合成された8 身体モデルと、洋服4 着の組合せ合計32 試料が1 枚ずつ写し出された画面を見て、「似合う」「どちらでもない」「似合わない」の3 段階で判定する。

3. 解析方法

a. 分散分析：肩幅・腰幅・脚幅を3 要因、3 要因に対する太い・細いを2 水準とし、主効果と交互作用を求めため3 元配置の分散分析を行う。

結果・考察

従来の9 つの研究結果を1 つにまとめたものを Table. 1 に示す。縦軸は被験者要因、横軸は洋服要因、各要因の番号に対応する項目は以下に示す。また表中の番号は5 項目刻みで、先頭の番号のみ示し、○印は「似合う」、×印は「似合わない」要因を示す。

〈洋服の要因〉

1. パステルカラー 2. 原色 3. モノトーン(白) 4. モノトーン(黒) 5. コントラスト(弱) 6. コントラスト(強) 7. 5R 7/2 8. 5Y 6/6 9. 2.5G 5/6 10. 7.5B 4/2 11. 水玉模様 12. 花柄模様 13. 光沢のある 14. ニット 15. シースルー 16. トリコット 17. ワンピース 18. スーツ 19. セーター 20. 長袖 21. 半袖 22. 袖無し 23. フレンチ 24. 衿無し 25. テーラー 26. シャツカラー 27. タートル 28. ボー 29. フラットカラー 30. パンツ 31. ストレートスカート 32. フレアスカート 33. プリーツスカート 34. ギャザースカート 35. ソフトプリーツスカート 36. タイトスカート 37. ウエスト絞った 38. ウェストルーズ 39. ベルト 40. 共ベルト 41. チェーンベルト 42. ポケットチーフ 43. プレスレット 44. ネックレス 45. ネックレス(パール) 46. ナップザック 47. ローファー 48. 現代的な 49. 今風な 50. 時代遅れな 51. ヤングな 52. 若々しい 53. 愛らしい 54. 大人っぽい 55. アダルトな 56. ミセス風な 57. やぼったい 58. ありふれた 59. 素朴な 60. 繊細な 61. ソフトな 62. あわい 63. 澄んだ 64. 甘美な 65. 大胆な 66. はっきりした 67. 強烈な 68. 活発な 69. 地味な 70. 平凡な 71. 独特な 72. 派手な 73. 個性的な 74. エレガンスな 75. 知的な 76. ハイセンスな 77. 洗練された 78. 格調高い 79. 深みのある 80. 女らしい 81. 男っぽい 82. ボーイッシュな 83. スポーティーな 84. カジュアルな 85. 陽気な 86. 親しみやすい 87. 温かい 88. 夢のある 89. 温和な 90. 陰気な 91. 近寄りにくい 92. 冷たい 93. アンバランスな 94. 調和のとれた 95. 落ち着いた 96. 古典的な 97. 古風な 98. 子供っぽい 99. 甘い 100. 活動的な 101. 上品な 102. かっちりした 103. 明るい 104. 暗い

〈被験者の要因〉

1. ロング・セミロング 2. ショート 3. 量感あり 4. 量感無し 5. 細面 6. 菱形 7. 丸型 8. 四角 9. 長方形 10. 五角 11. 逆三角 12. 彫り深い 13. 彫り浅い 14. 肌白い 15. 肌ピンク 16. 肌黄色い 17. 肌黒い 18. きめ粗い 19. 目垂れた 20. 目釣った 21. 目離れた 22. 目くっついた 23. 目細い 24. 目小さい 25. 目大きい 26. 目三角 27. 眉濃い 28. 眉薄い 29. 眉出す 30. 眉隠す 31. 鼻長い 32. 鼻先が丸い 33. 鼻先の尖った 34. 鼻低い 35. 鼻高い 36. 鼻小さい 37. 鼻大きい 38. 鼻上向き 39. 鼻下向き 40. 額出した 41. 額隠した 42. 額広い 43. 額狭い 44. 唇大きい 45. 唇小さい 46. 肩太い 47. 肩細い 48. 腰太い 49. 腰細い 50. 脚太い 51. 脚細い 52. 暗い 53. 地味な 54. 目だたない 55. 目だった 56. ケバケバした 57. 派手な 58. 寂しい 59. おとなしい 60. 物静かな 61. 明るい 62. 活発な 63. 活動的な 64. 健康的な 65. はつらつとした 66. おっとりした 67. のんびりした 68. ぼーっとした 69. のっぺりした 70. ふんわりした 71. ふっくらした 72. ぼっさりした 73. はればつたい 74. ほっそりした 75. 瘦せた 76. こじんまりした 77. 貧相な 78. 田舎っぽい 79. ナチュラルな 80. 素直な 81. 清楚な 82. 垢抜けた 83. 華やかな 84. メリハリのある 85. きつい 86. シャープな 87. 高慢な 88. 厳しい 89. きりっとした 90. しっかりした 91. 冷たい 92. 近寄りにくい 93. 親しみにくい 94. エキゾチックな 95. 温かい 96. 優しい 97. 親しみやすい 98. ソフトな 99. 大人っぽい 100. シックな 101. 気品のある 102. 上品な 103. 女っぽい 104. 頼りない 105. マニッシュな 106. 子供っぽい 107. かわいい 108. 童顔 109. おちゃめな 110. ボーイッシュな 111. キュートな 112. 現代的な 113. 若々しい 114. 古典的な 115. 老けた 116. 日本的な 117. すました 118. マットな 119. ぎすぎすした 120. 知的な 121. 垢抜けた

この表を利用することで得られる結論の例を次に示す。

a. 多くの被験者に「似合う」効果を期待できる、洋服の要因ベスト6を次に示す。括弧の中の数字は、洋服の要因番号を表す。

1. 素材の光沢がある (13), 2. 素材がトリコット (16), 3. フレンチスリーブ (23), 4. プリーツスカート (32), 5. ギャザースカート (35), 6. 冷たい (92)

b. 多くの洋服に「似合う」効果を期待できる人の要因ベスト5を次に示す。

1. 華やかな (84), 2. 大人っぽい (100), 3. シックな (101), 4. 上品な (103), 5. 現代的な (113),

c. ある人に「似合う」洋服はどのようなデザインやイメージであるのか、この表を利用すれば検索できる。筆者を例に考えてみる。第三者が、筆者を被験者要因項目で判定した場合、1. ヘアスタイルはセミロング, 5. 細面, 22. 目が細い, 58. おとなしそう, 59. 物静かな, 89. 厳しい, 91. しっかりした, 93. 近寄りにくい, 111. ボーイッシュなであった。この9項目と洋服要因項目の組み合わせで、○印(「似合う」に効果がある)の数を合計した結果、筆者に似合う洋服は、13. 花柄模様, 25. フレンチスリーブ, 34. プリーツスカート, 35. ギャザースカート, 97. 冷たいイメージであった。

参考文献

- 1) 磯井佳子, 風間健; 繊維学会誌, 45, 81(1989).

注

- 1) 中村智子「「似合う」イメージの諸要因の解析に関する研究」武庫川女子大学被服学科卒業論文(1985).
- 2) 武政泰子「衣服のカラーシュミレーションによる「似合う」色の研究」武庫川女子大学被服学科卒業論文(1986).
- 3) 山本路子「「似合う」イメージの諸要因の解析—衣服のデザインと顔の関係について—」武庫川女子大学被服学科卒業論文(1986).
- 4) 磯井佳子, 小田順子, 風間健「衣服の視覚判定効果に関する言語表現の基準—着用者について—」; 繊維学会年次大会(1989).

「似合う」要因の研究成果の体系化

- 5) 中川智景「カラーシュミレーションによる衣服デザインの似合い方の研究」武庫川女子大学被服学科卒業論文(1987).
- 6) 神橋倫世「似合う要因についての研究」武庫川女子大学被服学科卒業論文(1989).
- 7) 中川智景「被服の視覚効果に与える色彩と表情の影響」武庫川女子大学被服学科修士論文(1989).
- 8) 佐藤華代子, 磯井佳子, 風間健, 「衣服の視覚効果に及ぼす身体太さの影響—身体部位の影響—」; 消費科学学会年次大会(1990).

Table 1. Clothings and wearers to discriminate the rate of becoming

WEARERS	CLOTHINGS																					
	1	6	11	16	21	26	31	36	41	46	51	56	61	66	71	76	81	86	91	96	101	
1			○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○		○				○ ○	○ ○					○ ○ ○	○	
6											○ ○			○ ○	○ ○ ○					○ ○	○ ○	
11			○ ○ ○		○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○			○ ○			○ ○ ○ ○	○ ○ ○					○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
16			○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○			○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
21			○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
26					○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○						○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
31	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
36					○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○						○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
41			○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
46			○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○						○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
51			○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○						○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
56	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
61	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	
66	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	

(磯 井)

